

文化財庭園保存技術者協議会 会報

2007.12 第11号

編集・発行：文化財庭園保存技術者協議会（代表：玉根徳四郎）
〒600-8361 京都市下京区大宮通花屋町上ル NPOみどりのまちづくり研究所内
TEL：075-341-2600 FAX：075-361-0961
評議会連絡所：〒606-8371 京都市左京区北白川瓜生山2-116 京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センター
TEL：075-791-9018 FAX：075-791-9342
東京連絡所：〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1-6-3福田ビル3F 文化財庭園保存技術研究センター
TEL：03-3202-5233 FAX：03-3202-5394

平成19年度第2回研修会のご案内

平成19年度第2回研修会を下記の通り奈良県にて開催いたします。

初日の教養研修は依水園にて2名の講師の方に依水園の修復整備などについてご講演頂き、2日目の実地技能研修では、平城宮東院庭園、平城京左京三条二坊宮跡庭園、旧大乘院庭園の3箇所において、実際に庭園の修復整備に携われた講師の方にご解説いただきます。

庭園の様々な事柄について、率直な意見交換が期待できます。ふるってご参加ください。

●平成20年1月26日(土) 会場：依水園（奈良県奈良市水門町）

12：45 受付開始（依水園）

13：00 開会

13：10 教養研修（公開講演）

講演 1：清水重敦氏（奈良文化財研究所研究員）（予定）
（仮称）「名勝依水園庭園における建造物について」

講演 2：吉村龍二氏（環境事業計画研究所所長）
「名勝依水園庭園修復整備事業について」

15：00 実地技能研修 依水園にて

現地指導：牧岡一生氏（本協議会準会員）

16：30 閉会

●平成20年1月27日(日) 会場：平城宮東院庭園（奈良県奈良市佐紀町） 平城京左京三条二坊宮跡庭園（奈良県奈良市三条大路一丁目） 旧大乘院庭園（奈良県奈良市高畑町）

09：20 受付開始（平城宮東院庭園）

09：35 解説：仲隆裕氏（京都造形芸術大学教授） 「平城宮東院庭園について」

09：50 平城宮東院庭園見学 移動

11：30 平城京左京三条二坊宮跡庭園

解説：尼崎博正氏（京都造形芸術大学教授・本協議会評議員） 「宮跡庭園について」

説明：吉村龍二氏（環境事業計画研究所所長） 「宮跡庭園修理事業について」

12：00 宮跡庭園見学 移動・昼食

14：15 旧大乘院庭園

解説：尼崎博正氏 「旧大乘院庭園について」

説明：真鍋建男所長・白石建主任研究員（空間文化開発機構）
「旧大乘院庭園修理事業について」

14：45 旧大乘院庭園見学

案内：上原修氏（本協議会副代表）

15：30 閉会・解散

※ 26日(土)の教養研修は一般公開いたしますので、どなたでもご参加頂けますが、事前のお申し込みが必要です。事務局(Tel：075-341-2600)までお申し込み下さい。

また、27日(日)の実地技能研修会に参加を希望される方は、事務局までお問い合わせ下さい。

平成19年度総会ならびに第1回研修会の報告

平成19年(2007)7月27日(金)、京都市右京区の天龍寺において、文化庁、京都府、京都市より来賓を迎え、また、天龍寺の梅宗務総長ならびに小川法務・庶務部長にご臨席いただく中、本協議会の総会を開催しました。その概要をご報告いたします。

まず、本協議会玉根徳四郎代表、続いて天龍寺梅宗務総長にご挨拶いただいた後、来賓の文化庁記念物課本中文化財主任調査官、京都府文化財保護課森下記念物係長よりご挨拶いただきました。

この後、本中文化財主任調査官より、昨今の文化財保護行政、とりわけ、世界遺産の登録に向けた各地の動きや課題について話題提供をいただいた後、議事に入りました。

議事は総会資料に従い、先に平成18年度の事業報告・決算報告・監査報告、続いて平成19年度の事業計画ならびに予算が報告されました。

総会に引き続き、同会場で教養研修が行なわれました。

最初に、丸山宏評議員より「名勝庭園の誕生とその指定背景について」と題してご講演いただきました。明治維新後の時代変化の中、文化財保護という概念や制度がどのように整えられていったのか、庭園や名所地などの名勝指定の制度がどのように誕生したのかについてご解説いただきました。

続いて、京都市文化財保護課今江秀史技師より「京都市指定・登録名勝庭園の保存管理計画について」と題して講演いただきました。年々変化していく庭園の植栽や地割を後世に伝えるための総合的な管理計画の作成について、具体例による管理計画の作成経過を交えてご解説いただきました。

3番目に、尼崎博正評議員より「天龍寺庭園の変遷について」と題して講演いただきました。天龍寺が創立された時代の庭園の立地条件や作庭思想などを石材という材料から考察した、今までの庭園史研究の成果についてご解説いただきました。

最後に、平木信行準会員より「天龍寺庭園の維持管理について」と題して講演いただきました。長年、天龍寺庭園の管理に務めてこられる中、植栽などの変化とどう向き合って庭園の管理を行って来たかをお話いただくとともに、樹勢回復のための新しい試みなどについてもご解説いただきました。

4人の方の講演による教養研修を終え、天龍寺庭園を実際に見ながらの実地技能研修が行われました。尼崎博正評議員、平木信行準会員、曾根将郎研修会員などの指導により、庭園内において実際どのように植栽を管理しているのか、また近年取り入れた管理技術の成果などについて、実地に視察することができました。



教養研修の様子



実地技能研修の様子

翌7月28日(土)、京都市北区の京都市指定名勝の西村家庭園において、実地技能研修が行われました。尼崎博正および龍居竹之介評議員の監修のもと、京都市文化財保護課今江秀史技師に西村家庭園の歴史や近年の状況などについてご解説・ご助言いただき、また所有者の西村良之助氏・松子夫人にもお立会いいただきながら植栽の管理を行いました。

西村家庭園は、もともとは近くの上賀茂神社に縁のある社家と呼ばれる人の邸宅の庭であるため、尼崎博正および龍居竹之介評議員より、上賀茂神社からの西村家庭園に至る通りからの景観、つまりは庭の外からの眺めも重視するという方針が提示されました。その後、玉根徳四郎代

表が全体の技術指導を行いつつ、6班に分けられた参加者は、各班の正会員を中心として、樹木の剪定方法や、庭の景色のあり方などについて討議しつつ剪定作業を行い、各自技術の研鑽に努められました。

最後に、各評議員より講評をいただき、最後に西村氏から、庭が本来の雰囲気を保ちつつも一新された感じでありがたいとお礼の言葉をいただき、実技技能研修を終えました。

3日目の7月29日(日)は、京都市左京区において、実地技能研修が行われました。

まず、南禅寺境内において、崩落した法面の復旧工事現場と、南禅寺別院である南禅院の庭園を視察しました。復旧工事現場では、法面を強固にしながらも植栽可能な新しい工法の成果を植彌加藤造園の現場担当者よりご解説いただき、一方の南禅院庭園では、尼崎博正評議員より、庭園の歴史や石材の使い方などについてご解説いただきました。

続いて、南禅寺に隣接する、明治～大正に作られた別荘庭園「何有荘」を視察しました。尼崎博正評議員に庭園の歴史についてご解説いただき、続いて研修会員の植彌加藤造園の加藤友規氏より、庭園の管理方針や将来の構想などについて、主に植栽管理の観点からご解説いただきました。



実地技能研修の様子

そして、最後に各評議員より3日間全体を通しての講評をいただき、玉根徳四郎代表より閉会のご挨拶をいただき、3日間の日程を終了しました。

庭園学講座14開催される

本協議会では、京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センターが主催する庭園学講座14「京町家の庭」を特別教養研修と位置付け、会員の方に開講のご案内をさせていただきましたところ、今回、17名の会員にご参加いただきました。その概要をご報告いたします。

講座は、平成19年(2007)8月31日(金)から9月2日(日)の3日間開催されました。

1日目は、京都造形芸術大学での本協議会評議員でもある京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センターの尼崎博正所長より「町屋の庭と市中の山居」と題して、茶庭の発展から近代の煎茶趣味の影響を受けた別荘庭園成立の思想的背景についてのご講演から始まりました。続いて、武者小路千家の千宗守家元より「都の山里」と題して、三千家の一つである武者小路千家の歴史とその茶道の思想・気風についてご講義いただき、さらに、京都市美術館の村井康彦館長より「山紫水明の都の文化」と題して、平安京の成立とそれ以後の京都の街並み・町屋の発達過程についてご講義いただき、午前中の日程を終えました。

午後は、現地研修として、京都に残る町屋の中から、京都市の文化財に指定・登録されている奈良屋杉本家、野口家、秦家の3つのお宅にお邪魔し、それぞれの町屋の所有者の方から、その歴史や維持管理について様々なお話をお伺いしながら町屋と町屋の庭の構成や配置などを実際に見学しました。

2日目は、午前中は京都造形大学での講義で始まりました。まずは、本協議会の事務局長補佐でもある京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センターの仲隆裕研究部門長より「日本庭園の〈用〉と〈景〉」と題して、平安時代・鎌倉時代の庭と、江戸時代の町屋の庭の実用面と観賞面のあり方についてご講演いただきました。続いて、小川流煎茶の小川後楽家元より「煎茶の庭—その希求する源的の世界—」と題して、日本での煎茶の成り立ちと、煎茶の自然観についてご講義いただき、さらに、京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センターの中村利則副所長より「京町屋のニワ・庭」と題して、京都の町屋の具体的な構成とその変遷についてご講義いただきました。

午後は、現地研修として、初日にご講義いただいた、千宗守家元の武者小路千家（官休庵）と、この日午前にご講義いただいた、小川後楽家元に縁のある邸宅である京都府議会公舎（小川可進旧宅・富岡鉄斎旧宅）を見学しました。京都の抹茶と煎茶を代表する2つの邸宅とその庭（露地）の構成やその維持管理について、武者小路千家の方や小川後楽家元から様々にお話をお伺いしました。

3日目は、午前中は現地研修として、遊興の場として名高かった京都島原に残る貴重な揚屋建築であり、重要文化財にも指定されている角屋を見学しました。歓楽街と俗にいわれるものの、その中でも宴会という「もてなし」を主な目的として作られた角屋の建築や庭の特徴とともに角屋の歴史的な変遷などについて、角屋保存会の中川清生理事長ほか、職員の方々からご説明いただきました。

午後は、京都造形大学でのシンポジウム形式の講義となりました。町屋の再生と利活用ということを中心に、まず、本協議会評議員でもある京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センターの安原啓示副所長より「町屋の保存活用」と題して、全国での文化財に関わる集落や街並み、町屋の保存の事例についてのご講義に続いて、信州大学の佐々木邦博教授より「京の街並みにおける空間構成の特徴ーフランスの都市計画と比較してー」と題しての、フランスのパリの都市計画の歴史から見た京都の街並みの構成の特徴という、異色のご講義をいただきました。

そして、京都での具体的な街並みの保存・活用の事例報告として、財団法人京都市景観・まちづくりセンターの寺本健三事務局次長と京都市文化財保護課の今江秀史技師より、町屋とその庭の保存・活用のための事前調査の手法や、街並み保護あるいは文化財保護という観点からの法律・条例その他の制度による保存・活用の事例をご報告いただいて後、質疑応答・討論に入りました。

討論では、庭園の維持管理や保存・管理の手法だけでなく、庭園の歴史・価値をどうやって見極めるのかといったといった鋭い質問もあるなど、短い時間ながらも白熱した討論がなされ、最後に尼崎博正所長による総括と、閉講のご挨拶をいただき、3日間にわたる講座を終了しました。

平成19年度技能技術練磨事業及び第4回文化財庭園フォーラム開催される

平成19年(2007)10月5日(金)～7日(日)の3日間、静岡県において技能技術練磨事業及び文化財庭園フォーラムを開催し、28名の会員にご参加いただきました。文化財庭園フォーラムについては、静岡県教育委員会、富士川町教育委員会、静岡県文化財保存協会、本協議会の主催、静岡市の共催のもと、本評議会の龍居竹之介・中村一・尼崎博正・丸山宏評議員の監修で、玉根徳四郎代表を筆頭に見学会・シンポジウム共に一般公開形式で行いました。その概要をご報告いたします。

10月5日(金)、6日(土)には、静岡県富士川町に所在する古谿荘庭園を研修会場にして、技能技術練磨事業を実施しました。剪定技術により、どのようにして本来の庭園の姿を取り戻すか、評議員、会員諸氏で討議した上で、玉根代表が全体の技術指導にあたり、6班に分かれ、各班とも正会員を中心に管理実技が進められました。そして6日(土)には、文化財庭園フォーラムの一環として文化財庭園保存管理技術見学会を開催し、古谿荘の庭園の歴史やその価値について解説するとともに、本協議会技能会員の庭園管理技術を広く一般の方に公開しました。



技能・技術練磨事業の様子

本来、古谿荘の庭園は、北方に聳える富士山を背景にした簡素な作りの平庭と、南方の駿河湾を見下ろす、高低差の大きい地形を利用した滝流れのある庭から構成されていましたが、樹木の伸長により富士山や駿河湾が見えなくなり、庭園本来の持ち味が失われてしまっている状況になっていました。そこで今回は、庭園の主景である富士山への見通しを遮っているマツなどの高木の強剪定を中心に、中低木の伐採を行った結果、彼方に富士山を見通すことができる高さにまで樹高を下げる事ができました。簡素な平庭の奥に富士山が見通せる眺めはさぞ素晴らしいものであると想像されましたが、



見学会の様子

あいにくの曇り空でもあり、富士山の姿を十分に堪能することはできませんでしたが、わずかな時間、雲の切れ目から富士山が眺められると、会員や見学会の参加者の方から感嘆の声があがり、庭園の本来の姿が取り戻されたという実感とともに、今回の研修の成果を確認することができました。

なお、今回の技能技術練磨事業の実施にあたっては、静岡県造園組合の方々にご支援いただきました。本協議会会員と協同しての剪定作業に始まり、剪枝の処分など、裏方の仕事までも黙々とこなしてくださった静岡県造園組合の方々はこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。

10月7日(日)は、場所を静岡県静岡市内に移し、宝泰寺をお借りして、文化財庭園フォーラムのシンポジウムを開催し、本協議会の会員を含めて126名にご参加いただきました。第1部の講演会では、常葉学園大学の土屋和男准教授より「近代和風の別荘ー近代和風住宅を通じた景勝地についてー」をテーマに、主に東京から神奈川、静岡県に至る地域での明治時代以後の別荘邸宅の発展やその構成などについての基調講演をいただきました。

第2部パネルディスカッションは、「文化財庭園の保存継承」をテーマにすすめられました。コーディネーターを文化財指定庭園保護協議会の樋渡達也会長にお願いし、パネラーには静岡県教育委員会文化課の松本稔章主席指導主事、静岡市生活文化局の渡邊康弘主幹、奈良文化財研究所文化遺産部の平澤毅主任研究員、京都造形芸術大学の尼崎博正教授、龍居庭園研究所の龍居竹之介所長、京都大学の中村一名誉教授、名城大学の丸山宏教授に、基調講演をいただいた常葉学園大学の土屋和男准教授をむかえて議論が交わされました。

まずは、パネラーの方々からの報告がはじまりました。松本稔章主席指導主事からは静岡県内の庭園の保護の経緯について、渡邊康弘主幹からは静岡市内の庭園の保護の経緯についてご報告いただきました。続いて平澤毅主任研究員からは、国内の文化財庭園の指定状況などについてご報告いただきました。新しい制度の創設に伴い文化財庭園の数は増加しているものの、一方で充分に知られないままに失われてしまう庭園も多いこと、そうしたことから早急に庭園の実体を把握していく必要があることをお話いただきました。

続いての尼崎博正教授には、庭園の管理技術の継承についてのご報告をいただきました。文化財庭園の数は増えているものの、庭園の意味を踏まえての維持管理が困難なことも多くなってきていること、今後は維持管理に関わる人材の要請が重要であることをお話いただきました。また、続いて龍居竹之介所長からは、文化財庭園の維持管理の費用についてのご報告をいただきました。文化財は当時の一級品の集合体であり、維持管理には費用がかかること、庭園を含む文化財の維持管理・修理の費用の確保が所有者によっては非常に困難なこと、今後、補助金や税制の優遇など、金銭面でも拡充していかなければ文化財の保護は難しくなる一方であることをお話いただきました。

さらに、中村一名誉教授からは、先の2日間の研修会場の古谿荘に関して、富士山という「借景」のとらえ方についてご報告いただきました。古来より日本では庭園の後方にある山並みを庭の景の一部として取り込んできましたが、背景の重要度は時代や庭の個性によって変化していること、庭園の背景は「借景」として一律にとらえて管理するものではなく、その庭ごとに個性を生かした管理をしなければいけないことをお話いただきました。また、丸山宏教授からは、日本人の山に対する意



講演会の様子

識についてご報告いただきました。全国の山が「〇〇富士」が名付けられて名所となり、花見や詩歌管絃の題材となり、さらには庭園の背景に取り込まれていったこと、日本人の自然観、庭園観には富士山の存在が欠かせないものになっていることをお話いただきました。

こうしてパネラーの報告の後、パネルディスカッションとなり、文化財庭園の捉え方や保存・維持管理について様々に議論が交わされました。

そして最後に、樋渡達也会長に、文化財庭園の保護には、古谿荘の庭園には背景に富士山があるというように、庭園本体の保護だけでなく、周囲の景観の保護も重要であること、庭園を保存していくには、文化財や景観・自然環境保護の制度を拡充し、管理技術を有する人材を確保・養成するとともに、管理費用を確保できるような取組みが重要であること、一方で庭園の管理は一樣のものではなく、それぞれの個性に応じた管理が必要であり、各地元において、風土に根ざした文化の一つである庭園を後世に伝えていくことが大事であり、今後も情熱をもって皆それぞれに庭園の保存継承をはかっていただきたい、と締めくくっていただきました。



パネルディスカッションの様子

なお、この3日間に、移動時間などを利用して、静岡県内の庭園の見学を行いました。10月6日(土)には、静岡県静岡市(旧清水市)に所在する、江戸時代には朝鮮通信使も立ち寄ったことでも名高い清見寺の庭園と、大正時代に西園寺公望の別荘であった坐漁荘の建築と庭園を見学し、また、10月7日(日)には、やはり静岡県静岡市内に所在する、臨濟寺、柴屋寺、浅間神社など、国指定の重要文化財建造物や名勝庭園をかかえる社寺を見学しました。特に臨濟寺については、本来は修行の道場ということで拝観は謝絶されているところを、静岡県、静岡市など関係各位のご尽力により、特別にご承諾いただいたの拝観となりました。

文化庁主催シンポジウム「文化財を支える伝統の名匠たち～選定保存技術～」開催される

平成19年(2007)10月6日(土)、7日(日)、金沢市のラプロ片町において、文化庁主催シンポジウム『伝統的な文化財を支える「伝統の名匠」』が開催されました。

当日は選定保存技術保存団体21団体が一同に会し、各団体の後継者育成の取り組みや、保存伝承活動についての報告がありました。本協議会では事務局2名が出席し、本協議会の活動を広く認知してもらうため、実技技能研修や技能技術錬磨などの研修会の状況のパネル展示を行いました。

新規加入会員の紹介

平成19年(2007)11月末日で技能会員は104名、支援会員・賛助会員は19団体、2名となりました。ここに新規に入会された方をご紹介します。

会員種別	氏名	所属	所在
準会員補	吉本 均	おて文字有限会社	静岡県
準会員補	花井 信行	高石造園土木	京都府
準会員補	井石 豊	小野田造園	兵庫県
研修会員	高石 正弘	高石造園土木	京都府
研修会員	小野田 誠	小野田造園	兵庫県

会員種別	氏名	所属	所在
研修会員	高谷 浩司		兵庫県
審査中	齋藤 貴吉	樋口造園(株)	京都府
審査中	鈴木 耕喜	樋口造園(株)	京都府
審査中	香山 昭	香山緑化	栃木県
審査中	濱野 美由紀	一級建築士事務所M.A.S.	神奈川県